

十八世紀中期から二〇世紀初頭の陸奥国会津郡金井沢村 における稲の作況記録 下

——室井家文書「作毛位付帳」(明治六年から大正五年まで)——

川 口 洋

はじめに

陸奥国会津郡高野組金井沢村(現、福島県南会津郡南会津町金井沢)の名主を世襲した室井家に保存されていた「作毛位付帳」(南会津町立奥会津博物館架蔵、室井家文書、四一九六)には、宝暦九(一七五九)年から大正五(一九一六)年に至る一五八年のうち、一一八年間の金井沢村における稲の作況が記録されている。管見の限り、本史料は、会津地方唯一の長期間に亘る歩刈の記録である。

本稿では、前稿に続き、散逸した明治十一〜十五・四三・四四年、大正元年を除く金井沢村における明治六(一八七三)年から大正五年に至る三六年分と、本史料に合綴されている隣村の福米沢村における明治十(一八七七)年から大正四(一九一五)年に至る三九年分を翻刻・紹介する(川口、二〇二一A、二〇二二)。

稲の作況は、米の生産・流通・消費、貢租、米価などを介して人口支持力に大きな影響を与えるため、人口変動の要因を検討するうえで重要な要素となる。稲の作況と寺院「過去帳」や「宗門改人別家別改帳」などから復

原できる人口指標を比較することにより、十八世紀から約一世紀に亘る北関東以北における人口減少の主要因と考えられてきた冷害に伴う凶作・飢饉の実像に迫る可能性を拓くことができる(川口、二〇二一B)。

会津地方周辺の五〇年以上に亘る稲の作況記録としては、①福島県福島市小倉寺の「村内年々前見記帳」(福島県、一九六五・八七四～八八二頁)、②山形県酒田市豊原の「稲歩刈帳」、「歩刈成績表」、「坪刈成績綴」(豊原研究会編、一九七八・五一七～六〇二頁)、③新潟県魚沼市湯之谷芋川、星家の「大福種子帳」と「大福稲刈帳」(アチック・ミュージアム、一九三九)、④栃木県大田原市河原、関谷家の「初取高覚帳」(岸、一九四七)、⑤青森県上北郡七戸町中野、中嶋家の「坪刈帳」(長谷・佐々木・菅、一九八三・二二三頁)、⑥山形県上山市高松、加藤家の「稲蒔覚帳」(柏倉・山崎編、一九五五・五三二頁)が知られている。

右にあげた稲の作況記録のなかで、金井沢村の「作毛位付帳」は、(1)記録期間が十八世紀中期から二〇世紀初頭まで一世紀を超える長期間に亘る点、(2)作成主体が③

⑥のような個別農家ではなく、①・②のように江戸時代以来の村(区)である点、(3)一升当たりの初重量を十八世紀中期から記録している点で貴重である。

本史料所載の一升初重量は、三節で後述するように、計測精度を慎重に吟味する必要があるものの、現在までに報告されている歩刈帳(坪刈帳)のなかで最古・最長級の記録である。金井沢村では、中部地方より一世紀以上早い十八世紀中期から、米の収量だけではなく、質を意識して、稔実度、乾燥度、品種の特性などの影響を受ける一升初重量の記録を始めた可能性^①がある。

会津郡金井沢村・福米沢村を含む若松県は、明治九(一八七六)年8月21日に福島県に合併された(田島町史編纂委員会、一九九一・四四頁)。明治十二(一八九九)年1月27日に、会津郡は、南会津郡と北会津郡に分割された(田島町史編纂委員会、一九九一・一三七頁)。町村制への移行に伴い、明治二二(一八八九)年4月1日に、南会津郡高野村、塩江村、福米沢村、金井沢村、静川村、針生村の六カ村が合併して南会津郡檜沢村となった(田島町史編纂委員会、一九九一・二五一頁)。檜

沢村は、江戸時代の高野組と同じ範囲である。

本稿では、史料の概要、一步の面積、粉の重量、稲の品種、歩刈の行われた時期、歩刈の対象となった水田、稲の作況について検討する。本稿では、新曆に換算した月日を算用数字、それ以外を漢数字で示す。室井家文書の史料は、初出時に奥会津博物館が付した資料番号を示す（南会津町教育委員会、二〇一〇）。

一 史料の概要

「作毛位付帳」には、厚紙の表紙に続いて、金井沢村の作況記録が、大正五（一九一六）年から明治十六（一八八三）年まで降順に綴じられている。明治十六年の作況記録の後に、隣接する福米沢村の作況記録が、明治一〇年から大正四年まで昇順に書写されている。この後に、金井沢村の作況記録が明治一〇年から明治六年まで降順に綴じられている。天保十二（一八四一）年から明治五（一八七二）年に至る三二年間の金井沢村における作況記録は散逸している。

福米沢村の作況記録冒頭には、表紙裏の注記や天明三

年の作況記録と同筆で、「（参照）自明治十年至大正四年歩刈 第十七区福米澤（大正五年八月十四日写）」と書かれている。そのため、十二代当主の室井平蔵氏が、大正五（一九一六）年8月14日、あるいは9月11日に、福米沢村の作況記録を書写して、金井沢村の明治十年と明治十六年の作況記録の間に合綴したとみられる⁽²⁾。

室井平蔵氏が、右の補填を行い、宝曆期から天保期の作況記録に一升粉重量を補筆して、厚紙の表紙を付け、「作毛位付帳」が現在の状況になった時期は、大正五年八月二十六日（9月23日）に行われた歩刈以降である。

金井沢村の作況記録のうち明治六、七年には、年月日に続いて「内歩刈」、地租改正のために地押・丈量が行われた後の明治八、九年には「歩刈」、福米沢村の作況記録冒頭には、先述のように「歩刈」と書かれている。明治二五（一八九二）年の金井沢村における作況記録をつぎに示す。

【史料二】「作毛位付帳」（室井家文書、四一九六）より
明治二五年の記録を抜粋

明治二十五年 旧八月二日

字石田 上 九十株

一、烏わせ 壹升四合六勺五才 星久吾

一升 二百五十八匁

字沢田 中 百四株

一、白稲 壹升七合八勺七才 星春吉

又ハ善作わせトモ云フ。

一升 二百七十三匁

字砂田 下 百十二株

一、山口 壹升七合七才 室井吉松

一升 二百八十三匁

宿元 区長 君島徳義

史料一には、歩刈を行った年月日、歩刈の対象となつた水田の小字名、水田の等級、稲の株数、稲の品種、稲の容積、地主名、一升籾重量が、上中下の三カ所で記録されて、末尾に宿元・区長の氏名が書かれている。

表紙裏の注記に、「明治ニナリテ概ネ左ノ如シ。(中略) 柵目、重量共籾にて」と書かれているため、籾の容積と一升籾重量が記録されたとみられる。小字名下部の

「上」「中」「下」は、六節で後述するように、上田、中田、下田という水田の等級を示す。「宿元」とは、歩刈のために脱穀や計量の場所を提供した家と考えたい。

金井沢村の作況記録には、歩刈の対象となつた水田の地主に加えて、明治九(一八七六)年から、世話掛、用掛、伍長、当役、人足、小走、鎌取の氏名が記されている。金井沢村ほか六カ村が合併して檜沢村が発足した翌年の明治二三(一八九〇)年からは、区長、当役、人足、小走の氏名が作況記録末尾に書かれている。そのため、明治・大正期の金井沢村における歩刈の実施主体は、江戸時代以来の村(区)であつたとみられる。

二 一歩の面積

明治九(一八七六)年の作況記録には、「上中式鎌旧竿^三而刈取、改正新竿六尺一分^二いたし彦平田壹鎌刈取候」と記されている。彦平の水田一歩を計測した「改正新竿」は、六尺一分を一問とする間竿である。明治九年まで金井沢村で歩刈の対象となる水田一歩を計測してきた「旧竿」は、一問 \parallel 六尺一分の「改正新竿」ではなか

つた。

若松県から布告された地租改正のための丈量に用いる一間の長さの規定した史料を つぎに示す。

【史料二】「地租改正心得布告別報第四號 明治八年四月」(会津若松市立図書館所蔵、遠藤家文書、若松県通達、管内布告(請求番号…十三—二一五〇))

地租改正心得布告別報第四號 明治八年四月

今般地租改正調方説論の儀に付、下調より心得方の儀、左の通申出候間、心得として相達候事。

地租改正調方手續書(第一條から第四條は省略)

第五條

従前檢地の節、六尺三寸、六尺壹分の間竿有之。一村内二様にては、後來紛紜を生ずる基に付、強て差支無之村々ハ、成るべく六尺壹分の間竿を以相改可申旨、先般懇々御説論に相成候處、いまた了解せざるものも有之趣、抑従前乃艸高ハ悉皆御廢止に相成、今般改て地價により地租を納ることなれば、右

間竿の長短さは、聊係ることにあらず。假令八元六尺三寸竿にて壹反歩の地面、六尺壹分を以改、反別壹反二畝歩になるとも、素取糶米壹石ならハ、改ても矢張壹石なるへし。然らハ敢て反別の名稱により地租の増減等ハ絶てなき筈はれば、能々考ひ了解すへし。(第六條以下は省略)

史料二によれば、若松県下の村々では、六尺三寸、または六尺一分を一間とする二種類の間竿で檢地が行われていた。地租改正のための丈量では、混乱を避けるため、六尺一分を一間とする間竿に統一するよう、若松県が明治八(一八七五)年4月に指示している。

金井沢村周辺では、地租改正のための地押・丈量が明治八年4月23日に着手されて、10月6日に完了した(田島町史編纂委員会、一九九一…六三—六六頁)³⁾。明治九年の作況記録にある「改正新竿」とは、若松県が指定した六尺一分を一間とする間竿を示すとみられる。

明治九(一八七六)年まで、歩刈の対象となる水田一步(一坪)の面積を測っていた「旧竿」の一間を六尺三寸〓約一・九〇九mと仮定すると、一步の面積は約三・

六四五[㎡]となる。一方、六尺一分[〓]約一・八二一 mを一間とする「改正新竿」で計測した一步の面積は約三・三一七[㎡]である。「旧竿」で計測した一步の面積は、「改正新竿」で計測した面積より〇・三二八[㎡]、約一割も広がった可能性がある。

三 粃の重量

史料散逸分を除く明治六（一八七三）年から大正五（一九一六）年に至る三六年間の金井沢村における作況記録には、一步の水田から収穫された一升当たりの粃重量が記録されている。粃の総重量は記録されていない。一升粃重量は、一四〇匁から三一五匁の間に分散している（表1）。凶作のために作況が記録されていない明治三五（一九〇二）年の二カ所を除き、明治・大正期に歩刈が行われた一〇六カ所のうち、一升粃重量の一桁目が〇であるものが五一カ所（四八％）、五であるものが二七カ所（二五％）、〇と五以外であるものが二八カ所（二六％）であり、明らかに偏りが見られる。

表1 金井沢村における粃1升当たりの重量

年代	粃1升当たりの重量別歩刈実施カ所
明治6(1873)年～明治10(1877)年	240匁：1カ所, 270匁：1, 275匁：1, 276匁：1, 280匁：2, 281匁：1, 285匁：1, 286匁：1, 290匁：3, 295匁：1, 300匁：2
明治16(1883)年～明治25(1892)年	140匁：1カ所, 150匁：1, 170匁：1, 228匁：1, 235匁：2, 249匁：1, 250匁：5, 258匁：1, 262匁：1, 264匁：1, 265匁：1, 267匁：1, 268匁：1, 270匁：1, 273匁：1, 283匁：1, 290匁：3, 292匁：2, 295匁：1, 300匁：3
明治26(1893)年～明治35(1902)年	200匁：1カ所, 220匁：2, 230匁：1, 240匁：2, 242匁：1, 244匁：1, 245匁：3, 250匁：2, 252匁：1, 259匁：1, 265匁：2, 270匁：3, 271匁：1, 275匁：1, 291匁：1, 295匁：2, 310匁：1, 311匁：1, 315匁：1, 記載なし：2
明治36(1903)年～大正5(1916)年 (明治43年～大正元年欠)	200匁：1カ所, 210匁：1, 215匁：1, 216匁：1, 220匁：2, 225匁：3, 227匁：1, 230匁：2, 234匁：1, 235匁：2, 241匁：2, 254匁：2, 255匁：2, 260匁：1, 270匁：2, 275匁：2, 280匁：3, 290匁：1, 295匁：1, 300匁：1, 310匁：1

史料) 奥会津博物館架蔵、「作毛位付帳」(室井家文書、4196)

福米沢村の明治一〇（一八七七）年から明治四二（一九〇九）年までの作況記録には、一步の水田から收穫された粉の総重量が記録されている。一升粉重量は記録されていない。歩刈が行われた九九カ所のうち、粉総重量の一桁目が〇であるものが四〇カ所（四〇％）、五であるものが十八カ所（十八％）、〇と五以外であるものが四一カ所（四一％）であり、大きな偏りがみられる。

福米沢村で明治四三（一九一〇）年から大正四（一九一五）年までに歩刈の対象となった十八カ所のうち十七カ所では、一升粉重量が記録されている。粉総重量は記録されていない。一升粉重量は、二一五匁から三六五匁の間に分散している。十七カ所のうち、一升粉重量の一桁目が〇であるものが七カ所（四一％）、五であるものが五カ所（二九％）、〇と五以外であるものが五カ所（二九％）であり、明瞭な偏りが確認できる。

明治・大正期の金井沢村と福米沢村で記録されている一升粉重量と粉総重量の一桁目の数値には、宝曆九（一七五九）年から天保十一（一八四〇）年に至る金井沢村の作況記録と同様、大きな偏りがみられるため、計測精

度には疑義がある。そのため、一升粉重量や粉総重量ではなく、粉の容積で作況を検討するのが妥当とみられる。

四 稲の品種

金井沢村で明治・大正期の三六六年間に歩刈の対象となった稲の品種は、本明返り、本明（本妙）、半上石（穀）、白子、善作わせ、白わせ、赤わせ、をくぼ、豊後、稲太郎、奥柴田、岩下、岩下稲、大竹稲、大黒、万倍、白稲、軽子わせ、かるこ、烏わせ、山口、せきやま、大倉、のと、清水である（表2-1）。

史料一には「白稲 又ハ善作わせトモ云フ」と記されており、同じ品種を異なる品種名で呼ぶこともあった。そのため、品種名だけを根拠に品種の異同を判断するのは早計である。ここでは、旧稿で検討した十八世紀後半の四二年間に歩刈の対象となった八種類の品種名に対して、十九世紀前半・後半に歩刈の対象となった品種名が著しく増加したことを指摘するにとどめたい。

金井沢村で三六六年間に歩刈が行われた一〇八カ所のう

表 2-1 金井沢村で歩刈の対象となった稲の品種

年代	稲の品種別歩刈実施力所
明治 6(1873)年～明治 10(1877)年	白子：5カ所，清水：3，赤わせ：2，のと：2，せきやま：1，大倉：1，からす：1
明治 16(1883)年～明治 25(1892)年	烏わせ：1カ所，白稲：1，山口：1，半上石：1，白子：1，半上石：1，岩下：1，不記載：23
明治 26(1893)年～明治 35(1902)年	本明返り：6カ所，本明：4，万倍：3，半上石：2，白稲：2，岩下稲：1，岩下：1，大竹稲：1，軽子わせ：1，かるこ：1，烏わせ：1，本妙：1，不記載：6
明治 36(1903)年～大正 5(1916)年 (明治 43 年～大正元年欠)	善作わせ：3カ所，白わせ：2，万ばい：1，をくぼ：1，半上穀：1カ所，本明返り：1，豊後：1，赤わせ：1，稲太郎：1，奥柴田：1，岩下：1，大黒：1，不記載：18

史料) 奥会津博物館架蔵、「作毛位付帳」(室井家文書、4196)

表 2-2 福米沢村で歩刈の対象となった稲の品種

年代	稲の品種別歩刈実施力所
明治 10(1877)年～明治 15(1882)年	虫喰ず：5カ所，わせ大黒：3，大黒：3，奥ぼ：2，本明：2，清水：1，小竹もち：1，小塩わせ：1
明治 16(1883)年～明治 25(1892)年	白しね：6カ所，虫喰ズ：3，小塩わせ：3，山口わせ：2，半上石(はん上石)：2，大黒：2，上へ田：1，植田：1，タハズ：1，稲烏わせ：1，奥ぼ：1，白稲：1，烏わせ：1，大倉：1，不記載：4
明治 26(1893)年～明治 35(1902)年	かる子(かるこ)：4カ所，白稲：3，三度替り(三度代り、三度かハリ)：5，三戸かわり：1，三度返り：1，半上穀(はんじょうこく)：2，半上穀カルホ交り：1，山口ワセ：1，ヲクボ：1，相馬ヲクボ：1，大丈白稲：1，白しね：1，梅三郎：1，大黒：1，越後ほん明：1，本明：1，金州：1，有子：1，不記載：2
明治 36(1903)年～大正 4(1915)年	元治郎わせ：8カ所，半上石：5，梅三郎もち(梅三郎もち)：4，白稲：4，文吾：3，おくぼ：2，ソヲマボ：2，相馬芒：1，シンシウ：1，エチゴ本明：1，三度変り：1，能固：1，元治郎白わせ：1，両原白わせ：1，ジックリわせ：1，関東わせ：1，里わせ：1，上田：1

史料) 奥会津博物館架蔵、「作毛位付帳」(室井家文書、4196)

ち、四七カ所（四四％）の品種名は記録されていない。品種名が記録されている六一カ所のうち、本明返りが七カ所（十一％）、白子が六カ所（一〇％）、本明（本妙）が五カ所（八％）で栽培されていた。

一方、福米沢村で明治一〇（一八七七）年から大正四（一九一五）年に至る三九年間に歩刈の対象となった稲の品種は、大黒、わせ大黒、かるこ（かる子）、虫喰ず、清水、奥ぼ（おくぼ）、本明、越後ほん明、上へ田（植田、上田）、大倉、タハズ、半上石（半上穀、はんじょうこく）、半上穀カルホ交り、白しね、白稲、大丈白稲、三度替り（三度代り、三戸かわり、三度返り）、梅三郎、梅三郎もち、小竹もち、金州、相馬ヲクボ、ソウマボ（相馬芒）、有子、文吾、能固、シンシウ、小塩わせ、烏わせ、稲鳥わせ、山口わせ、元治郎わせ、元治郎白わせ、両原白わせ、ジツクリわせ、関東わせ、里わせである（表2-2）。

福米沢村で歩刈が行われた一一七カ所のうち、六カ所（五％）の品種名が記録されていない。品種名が記録されている一一カ所のうち、白稲（白しね）が十四カ所

（十三％）、半上石（半上穀、はんじょうこく）が九カ所（八％）、元治郎わせが八カ所（七％）で栽培されていた。

金井沢村と福米沢村で同年代に共通に栽培されていた品種は、明治十六～二五年…白いね（白しね）と半上石、明治二六～三五年…かるこ（かる子）、白稲（白しね）、本明、半上石（半上穀）、明治三六年～大正五年…をくぼ（おくぼ）、半上石（半上穀）、豊後（文吾）にとどまる。隣接する両村では、品種名の異なる多様な稲が栽培されていた。

福米沢村の同一小字・地番で栽培されていた品種名をつきに列挙する。

三十刈四二〇番では、烏わせ（明治十七年）↓小塩わせ（明治十八年）↓半上石（明治十九年）↓稲鳥わせ（明治二〇年）↓虫喰ず（明治二一年）↓大黒（明治二二年）↓山口わせ（明治二四～二六年）↓半上穀カルホ交り（明治二七年）↓かる子（明治二八年）↓半上石（明治三八年）↓梅三郎もち（明治三九年）↓おくぼ（明治四〇年）↓ジツクリわせ（明治四一年）が栽培さ

れていた。

三十刈四五〇番で栽培されていた品種は、元治郎わせ（明治四一・四三年）↓半上石（明治四四年、大正元年）↓梅三郎モチ（大正二年）↓上田（大正三年）↓梅三郎もち（大正四年）である。

下川原六三〇番では、小塩わせ（明治二〇年）↓白しね・白稲（明治二一・二二・二四・二七年）↓三度替り（明治二八年）が栽培されていた。

下川原六二九番で栽培されていた品種は、梅三郎もち（明治四二年）↓関東わせ（明治四三年）↓白稲（明治四四年、大正元・三年）↓文吾（大正四年）である。

風下一二九番では、白しね（明治二二年）↓はん上こく（明治二四年）↓虫喰ズ（明治二五年）↓半上穀（明治二六年）↓三度替り（明治二七年）↓かる子（明治二八年）↓かるこ（明治三一年）が栽培されていた。

風下二二七番で栽培されていた品種は、ソラマボ（明治三六年）↓元治郎わせ（明治三七年）、相馬芒（明治三八年）、元治郎わせ（明治三九・四〇年）↓両原白わせ（明治四一年）↓元治郎わせ（明治四二・四三年）↓

半上石（明治四四年）↓里わせ（大正元年）↓半上石（大正二年）↓文吾（大正三・四年）である。

右に列記した同一小字・地番の水田では、ほぼ毎年、異なる品種名の稲が作付けされていた。六カ所の水田では、品種名のローテーションはみられない。

「作毛位付帳」に記録されている豊後（文吾）は、貞享元（一六八四）年に若松近郊に位置する會津郡幕内村の佐瀬与次右衛門が著した『會津農書』にみえる山間の集落に近い黄真土田、黒真土田、白真土田の水田に適する中生早稲と同名である（山田・飯沼・岡、一九八二・二四～二五頁）。白稲（白しね）は、『會津農書』に示される山間の卑泥田に適する晩稲と同名である（山田・飯沼・岡、一九八二・二七頁）。

大正三（一九一四）年に出版された『南會津郡誌』には、「本郡内ニ栽培セラル、水稲ノ品種」の早稲として本明返り、白早生、稲太郎、輕子といった粳稻、中稻として豊後、能登、上田、大黒、三度返があがっており、金井沢や福米沢が所属する檜沢村でも、白早稲、大黒、輕子、豊後、關山、稲太郎が栽培されていたことが確認

できる（福島縣南會津郡役所、一九一四・二〇九頁）。

五 歩刈の行われた時期

金井沢村では、史料散逸分を除く明治六（一八七三）年から大正五（一九一六）年に至る三六年間に、歩刈実施月日を旧暦で記録しているのが十九年間に、新暦で記録しているのが九年間（明治六〇・一〇・十六〇十八・二〇年）、新旧両暦が併記されているのが四年間（明治二一・二二・三〇・三一年）、実施月日不記載が四年間（明治三六・三九年、大正二・三年）である。金井沢村では、大正期まで歩刈実施月日を旧暦で記録することが多かった。

明治・大正期の金井沢村では、9月21日（明治六年）から9月25日（明治八年）までの期間に歩刈が行われた（表3-1）。9月23日に歩刈が実施されたのは十九年間に（五三%）、9月24日に実施されたのが七年間（十九%）、9月22

表 3-1 金井沢村で歩刈の実施された時期

年代	歩刈実施月日（西暦）別年数
明治 6(1873)年～明治 10(1877)年	9月 21日：1年，9月 23日：2， 9月 24日：1，9月 25日：1
明治 16(1883)年～明治 25(1892)年	9月 22日：2年，9月 23日：7， 9月 24日：1
明治 26(1893)年～明治 35(1902)年	9月 22日：1年，9月 23日：7， 9月 24日：2
明治 36(1903)年～大正 5(1916)年 （明治 43年～大正元年欠）	9月 23日：3年，9月 24日：4， 不記載：4

史料）奥会津博物館架蔵、「作毛位付帳」（室井家文書、4196）

表 3-2 福米沢村で歩刈の実施された時期

年代	歩刈実施月日（西暦）別年数
明治 10(1877)年～明治 15(1882)年	9月 23日：3年，不記載：2
明治 16(1883)年～明治 25(1892)年	9月 22日：1年，9月 23日：7， 9月 24日：1，9月 27日：1
明治 26(1893)年～明治 35(1902)年	9月 22日：1年，9月 23日：7， 9月 24日：2
明治 36(1903)年～大正 4(1915)年	9月 23日：4年，9月 24日：10

史料）奥会津博物館架蔵、「作毛位付帳」（室井家文書、4196）

日に実施されたのが三年間（八％）である。中田と下田に「未熟不製」と記されて、粉の容積と一升粉重量が記録されなかった明治三五（一九〇二）年にも、9月24日に歩刈が実施された。金井沢村では、明治初期から、原則として彼岸の中日に歩刈が行われる定時観測になった。

一方、福米沢村では、明治一〇（一八七七）年から大正四（一九一五）年までの三九年間に、歩刈実施月日を旧暦で記録しているのが十一年間（明治十一・二〇・二三・二六・二七・三一〜三六年）、新暦で記録しているのが二六年間、実施月日不記載が二年間（明治一〇・十四年）である。金井沢村と異なり、福米沢村では、明治一〇年から歩刈実施月日を新暦で記録することが多かった。

明治・大正期の福米沢村では、9月22日（明治二二、二九年）から9月27日（明治二二年）までの期間に歩刈が行われた（表3-2）。9月23日に歩刈が行われたのは二二年間（五四％）、9月24日に実施されたのが十三年間（三三％）、9月22日に実施されたのが二年間（五％）

である。歩刈の対象となった三カ所とも、粉の収量が五合を下回った明治三八（一九〇五）にも、9月24日に歩刈が実施された。金井沢村と同様、福米沢村でも、明治初期から、原則として彼岸の中日に歩刈が行われていた。

六 歩刈の対象となった水田

金井沢村では、史料散逸分を除く明治六（一八七三）年から大正五（一九一六）年までの三六年間の全ての人に、三カ所で歩刈が行われていた（表4-1）明治六・七・三一〜三八・四〇〜四二年、大正二〜四年の十六年間は、上田、中田、下田の各一カ所ずつで歩刈が行われた。明治十六〜二〇・二三〜三〇・三九年の十四年間には、上、中、下の三カ所における歩刈の結果が記録されている。この上、中、下は、上田、中田、下田と同義と考えたい。明治期以降の金井沢村では、上田、中田、下田の三カ所で歩刈が行われたとみられる。

金井沢村で三六年間に歩刈の対象となった一〇八カ所の地主のうち、頻出するのは、室井吉松が二八回（二六

表 4-1 金井沢村で歩刈の対象となった水田

年代	歩刈実施箇所別年数
明治 6(1873)年～明治 10(1877)年	3カ所：5年
明治 16(1883)年～明治 25(1892)年	3カ所：10年
明治 26(1893)年～明治 35(1902)年	3カ所：10年
明治 36(1903)年～大正 5(1916)年 (明治 43年～大正元年欠)	3カ所：11年

史料) 奥会津博物館架蔵、「作毛位付帳」(室井家文書、4196)

表 4-2 福米沢村で歩刈の対象となった水田

年代	歩刈実施箇所別年数
明治 10(1877)年～明治 15(1882)年	3カ所：6年
明治 16(1883)年～明治 25(1892)年	3カ所：10年
明治 26(1893)年～明治 35(1902)年	3カ所：10年
明治 36(1903)年～大正 4(1915)年	3カ所：13年

史料) 奥会津博物館架蔵、「作毛位付帳」(室井家文書、4196)

%)、星春吉が二四回(二二%)、野中弥作が一〇回(九%)である(表5-1)。歩刈の対象となった水田の地主は、明治十六(一八八三)年から明治三六(一九〇三)年まで、星久吾、星春吉、室井吉松の三人に、明治三九(一九〇六)年から大正四

(二九二五)年まで、野中弥作、鈴木五郎八、室井吉松の三人に固定している。

一〇八カ所のうち、六一カ所の小地名は記録されていない。類出するのは、沢田が一〇カ所、柿下が八カ所、段ノ上(砂田段ノ上を含む)が六カ所、ま、下(馬場ま、下、大道はたま、下、沢田ま、下を含む)が五カ所である(表6-1)。

金井沢村では、明治十六年から歩刈の対象となった水田の地主が固定化した。小字石田の星久吾または野中弥作、小字沢田の星春吉または鈴木五郎八、小字砂田の室井吉松が所有する三カ所の水田で歩刈を行うことが、村の慣習となったために、小地名が記録されなくなったのではなからうか。毎年、同じ水田で歩刈が行なわれていた可能性も否定できない。

一方、福米沢村では、明治一〇(一八七七)年から大正四(一九一五)年に至る三九年間の全ての年に、三カ所で歩刈が行われた(表4-2)。明治一〇・十一年には、歩刈の対象となった水田の小字名の上部に、「一」等、「四等」、「八等」といった水田の等級とみられる記

表 5-1 金井沢村で歩刈の対象となった水田の地主

年代	地主別歩刈実施力所
明治 6(1873)年～明治 10(1878)年	室井喜三郎：3 カ所，星利吉：3，室井市三郎：2，星久吾：2，鈴木藤吾：1，室井作七：1，室井市十郎：1，星春吉：1，彦平：1
明治 16(1883)年～明治 25(1892)年	星久吾：10 カ所，星春吉：10，室井吉松：7，室井喜三郎：3
明治 26(1893)年～明治 35(1902)年	星久吾：10 カ所，星春吉：10，室井吉松：10
明治 36(1903)年～大正 5(1916)年 (明治 43 年～大正元年欠)	室井吉松：11 カ所，野中弥作：10，鈴木五郎八：7，星春吉：3，星久吾：1，鈴木長次郎：1

史料) 奥会津博物館架蔵、「作毛位付帳」(室井家文書、4196)

表 5-2 福米沢村で歩刈の対象となった水田の地主

年代	地主別歩刈実施力所
明治 10(1877)年～明治 15(1882)年	室井しん：4 カ所，無跡 沖右衛門：4，佐藤寅太郎：3，室井豊蔵：2，湯田善八：2，児山求平：1，児山利八：1，藤沢八郎治：1
明治 16(1883)年～明治 25(1892)年	室井豊蔵：10 カ所，室井善吉：8，藤沢八太郎：4，室井政八：3，湯田定蔵：2，湯田善八：2，藤沢和七：1
明治 26(1893)年～明治 35(1902)年	室井豊蔵：8 カ所，室井政八：5，藤沢和七：5，室井善吉：5，藤沢八太郎：2，湯田定蔵：2，室井徳太郎：1，室井徳蔵：1
明治 36(1903)年～大正 4(1915)年	室井豊蔵：13 カ所，室井政八：13，藤沢八太郎：10，佐藤久弥：2，藤沢和七：1

史料) 奥会津博物館架蔵、「作毛位付帳」(室井家文書、4196)

録がある。一等から三等までが上田、四等から七等までが中田、八等以下が下田に当たる可能性がある。

福米沢村で三九年間に歩刈の対象となった一七カ所の地主、あるいは作主(小作人)のうち、頻出するのは、室井豊蔵が三三回(二八%)、室井政八が二一回(十八%)、藤沢八太郎が十六回(十四%)、室井善吉が十三回(十一%)である(表5-2)。とくに明治三六年以降に歩刈の対象となった水田の地主は、室井豊蔵、室井政八、藤沢八太郎の三人にほぼ固定される。

表 6-1 金井沢村で歩刈の対象となった水田の小地名

年代	小地名別歩刈実施力所
明治 6(1873)年～明治 10(1878)年	柿下：2カ所、段ノ上道南：2、宮ノ前：1、帯沢橋ノ向：1、下夕村前百刈：1、下夕村前久右衛門田：1、まゝ下：1、馬場まゝ下：1、大道はたまゝ下：1、廣面之内大道はた：1、不記載：3
明治 16(1883)年～明治 25(1892)年	沢田：7カ所、沢田まゝ下：1、まゝ下：1、柿下：6、砂田：3、砂田段ノ上：1、段ノ上：5、石田：2、不記載：4
明治 26(1893)年～明治 35(1902)年	石田：1カ所、沢田：1、砂田：1、不記載：27
明治 36(1903)年～大正 5(1916)年 (明治 43年～大正元年欠)	石田：2カ所、沢田：2、砂田：2、不記載：27

史料) 奥会津博物館架蔵、「作毛位付帳」(室井家文書、4196)

表 6-2 福米沢村で歩刈の対象となった水田の小地名

年代	小地名別歩刈実施力所
明治 10(1877)年～明治 15(1882)年	風下：6カ所、下川原：6、沼田：4、根岸：1、金井神：1
明治 16(1883)年～明治 25(1892)年	三十苜：10カ所、下川原：10、風下：9、柳原：1
明治 26(1893)年～明治 35(1902)年	三十刈：10カ所、下川原：10、風下：9、三百刈：1
明治 36(1903)年～大正 5(1916)年	三十刈：13カ所、下川原：13、風下：13

史料) 奥会津博物館架蔵、「作毛位付帳」(室井家文書、4196)

歩刈が行われた一一七カ所の水田が位置する小地名のうち、頻出するのは、下川原が三九カ所(三三%)、風下が三七カ所(三二%)、三十刈(三十苜)が三三カ所(二八%)である(表6-2)。明治十六(一八八三)年から、二例を除き、風下、三十刈、下川原の三カ所で歩刈が行われるようになった。

歩刈の対象となった水田の小地名・地番と地主(または作主・小作人)の組合せのうち、とくに多いものをつぎにあげる。

まず、明治十八・十九年には風下二二九番(室井善吉)、明治二〇・二一年には風下二九番(室井善吉)、明治二二・二八・三一年には風下一二九番(室井善吉)、明治三六年から大正四年には風下二二七番

(室井政八)が歩刈の対象となった。

また、三十刈四二〇番で歩刈が行われて、明治十七・十九・二〇年の地主は藤沢八郎治、明治二一・二二年の作主は室井政八、明治二四年の作主は湯田定蔵、明治二五年の地主は藤沢利七、明治二六・二七年の作主は湯田定蔵、明治二八年の作主は室井徳太郎、明治三八・三九年の小作人は佐藤久弥、明治四〇・四一年の地主は藤沢八太郎であった。明治四二年から大正四年まで、三十刈四五〇番(藤沢八太郎)で歩刈が行われた。

さらに、明治二〇〜二八年には下川原六三〇番(室井豊蔵)、明治三八〜四一年には下川原六三九番(室井豊蔵)、明治四二年から大正四年には下川原六二九番(室井豊蔵)で歩刈が行われた。

明治中期以降、福米沢では、歩刈の対象となった水田の小地名、地番、および地主がほぼ固定して、定点観測化したとみられる。

七 稲の作況

毎年三カ所で行われた歩刈のうち、各年に収穫された

籾の最大容積と最少容積を図1と図2に示した。金井沢村の一〇八カ所で記録された一歩の水田から収穫された籾の収量が、一升未満となったのは四カ所(四%)、一升以上一升五合未満は二八カ所(二六%)、一升五合以上二升未満は四五カ所(四二%)、二升以上は三カ所(二九%)である。十八世紀後半から十九世紀前半までの八二年間と比較すると、明治・大正期の金井沢村における籾の収量は、格段に増加した。

金井沢村で籾の収量が二升以上となったのは、明治十七〜二一・二三・二四・二六〜二八・三〇・三一・三三・三九〜四二年、大正三〜五年である。このうち、大正四(一九一五)年には、歩刈の対象となった三カ所の水田すべてで二升を上回った。三カ所のうち二カ所の水田で二升を上回った年は、明治十七・十九・二四・二六・二八・三九・四二年の七年間である。最も収量が多かったのは明治二四(一八九一)年で、品種名は記録されていないが、籾の容積が三升二合四勺、一升籾重量が一四〇匁、株数が一二二株である。これに次ぐのが大正四(一九一五)年で、品種名は奥柴田、籾の容積が二升

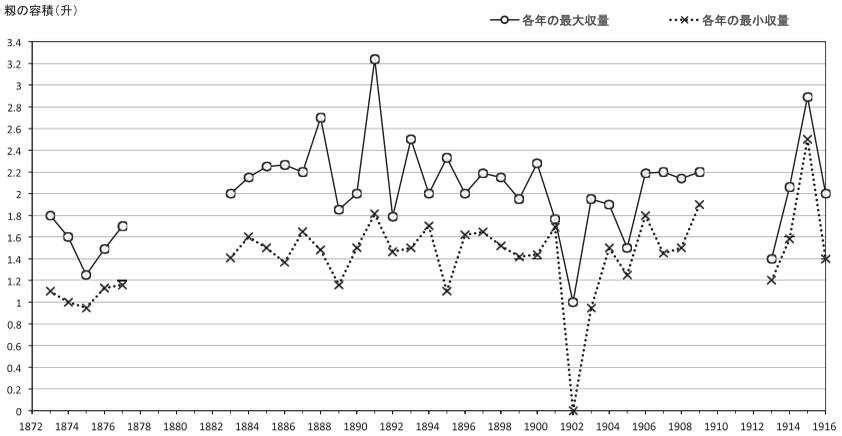


図1 福島県南会津郡檜沢村金井沢における1歩の水田から収穫された籾の収量(1873-1916)

史料) 奥会津博物館架蔵、「作毛位付帳」(室井家文書、4196)

注) 毎年3カ所で行われた歩刈の結果のうち、各年次における籾の最大収量と最少収量を表示した。

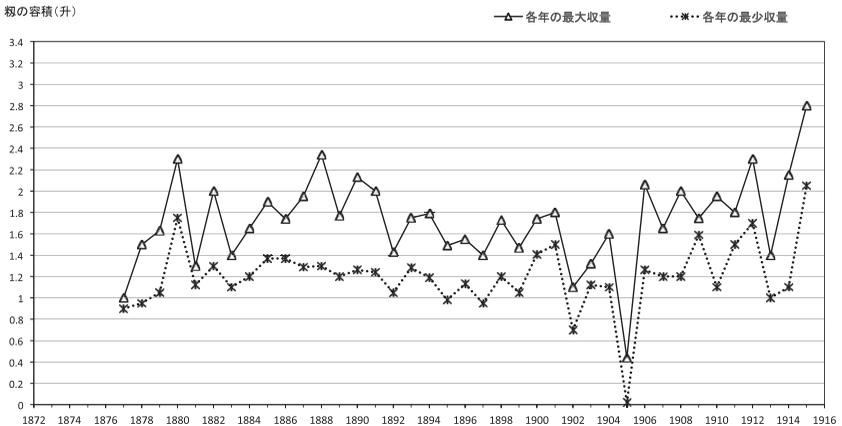


図2 福島県南会津郡檜沢村福福沢における1歩の水田から収穫された籾の収量(1877-1915)

史料) 奥会津博物館架蔵、「作毛位付帳」(室井家文書、4196)

注) 毎年3カ所で行われた歩刈の結果のうち、各年次における籾の最大収量と最少収量を表示した。

八合九勺、一升粃重量が二二五匁、株数が七六株である。

金井沢村で粃の収量が一升未満となったのは、明治八・三五・三六年である。最も収量が少なかったのは明治三五（一九〇二）年で、品種名が岩下稲、粃の容積が「未熟不製」、株数が八四株の中田と品種名が大竹稲、粃の容積が「未熟不製」、株数が七六株の下田の二カ所である。これに次ぐのが明治八年の品種名が清水、粃の容積が九合五勺、株数が一三四株、一升当たりの粃重量が二七〇匁と、明治三六年の品種名が善作わせ、粃の容積が九合五勺、株数が七三株、一升当たりの粃重量が二九五匁である。

一方、福米沢村の一七カ所で記録された粃の収量が、一升未満となったのは九カ所（八％）、一升以上一升五合未満は六二カ所（五三％）、一升五合以上二升未満は三三カ所（二八％）、二升以上は十三カ所（十一％）である。

福米沢村で粃の収量が二升以上となった年は、明治十
三・十五・二一・二三・二四・三九・四一年、大正元・

三・四年である。このうち、大正四（一九一五）年には、歩刈の対象となった三カ所の水田のすべてで、明治三九（一九〇六）年には、三カ所のうち二カ所で二升を上回った。最も収量が多かったのは大正四年であり、品種名は文吾、粃の容積が二升八合、一升当たりの粃重量が三六五匁、株数が七七株である。これに次ぐのが大正四年であり、品種名は文吾、粃の容積が二升五合七勺、一升当たりの粃重量が二九五匁、株数が八六株である。

福米沢村で粃の収量が一升未満となった年は、明治十・十一・二八・三〇・三五・三八年である。このうち、明治三八（一九〇五）年には、歩刈の対象となった三カ所の水田すべてで、明治三五（一九〇二）年には、三カ所のうち二カ所で一升を下回った。最も収量が少なかったのは明治三八年で、品種名が相馬芒、粃の容積が二勺、株数が六八株、粃重量が八匁である。これに次ぐのが明治三八年の品種名が三度変り、粃の容積が一合八勺七才、株数が九六株、粃重量が四三匁である。

両村ともに作況が記録されている明治十六（一八八三）年から明治四二（一九〇九）年に至る二七年間に

ける各年の最大収量の平均値は、金井沢が二・一升（標準偏差…〇・三八四）、福米沢が一・六六五升（標準偏差…〇・三五九）である。各年の最少収量の平均値は、金井沢が一・四四二升（標準偏差…〇・三五一）、福米沢が一・一五八升（標準偏差…〇・二八三）である。品種の特性、地味、農業技術、計測誤差などの影響を受けて、明治中後期の二七年間の平均収量には、隣接する金井沢村と福米沢村との間に約三合の差異がみられる。

図1と図2を比較すると、明治三八（一九〇五）年に、福米沢では十九世紀で最低の作況を記録して、最少収量は二勺（品種名…相馬芒）、最大収量は四合四勺（品種名…半上石）であったが、金井沢の最少収量は一升二合五勺（品種名…善作わせ）、最大収量は一升三合（品種名…白わせ）であった。明治三五（一九〇二）年、金井沢の中下田では「未熟不製」（品種名…岩下稲、大竹稲）、最大収量は一升（品種名…本明返り）であったが、福米沢村の最少収量は七合（品種名…金州）、最大収量は一升一合（品種名…本明）であった。隣接する村落であっても、栽培している品種名が異なるため、凶作

となった明治三五・三八年の歩刈の結果にも大きな差異が確認できる。

『南會津郡誌』によれば、郡山町に立地する福島県立農事試験場における品種名が豊後（中稲）の反当収量が二石二斗六升九合、輕子（中稲）の反当収量が二石四升九合である（福島縣南會津郡役所、一九一四…二一〇頁）。三〇〇歩を一反、糶摺りを五合摺りと仮定すると、一步の水田から收穫された籾の収量は、豊後が一升五合一勺、輕子が一升三合七勺と試算できる。

一方、「作毛位付帳」に記録されている金井沢村における豊後の籾の収量は、大正五（一九一六）年に一升七合である。かるこの籾の収量は、明治二八（二八九五）年の金井沢村で一升一合、明治二八年の福米沢村で一升四合（かる子）と一升三合一勺（かる子）、明治三二年の福米沢村で一升七合三勺、明治三二年の福米沢村で一升一合一勺である。

小 結

本稿では、陸奥国会津郡高野組金井沢村で名主を世襲

した室井家が保存してきた「作毛位付帳」のうち、明治六（一八七三）年から大正五（一九一六）年に至る散逸分を除く、三六年間の作況記録と、本史料に合綴されている福米沢村における明治十（一八七七）年から大正四（一九一五）年までの三九年間の作況記録を紹介した。

本史料には、明治・大正期の金井沢村で歩刈の対象となった水田の地主に加えて、区長をはじめ、当役、人足、小走、世話掛、用掛、伍長、鎌取の氏名が列記されている。そのため、歩刈の実施主体は、江戸時代以来の村（区）であったと解釈できる。

地租改正のために明治八年に実施された地押・丈量契機に、若松県は、六尺三寸または六尺一寸を一間とする間竿から六尺一分を一間とする間竿に統一した。そのため、明治九年の歩刈から、一步（一坪）の面積が一割程度、減少した可能性がある。

明治・大正期の金井沢村と福米沢村における作況記録には、一步の水田から収穫された籾の容積、籾重量、株数が記録されている。籾重量の計測精度には疑義があるため、籾の容積で作況を分析するのが妥当とみられる。

明治・大正期の両村では、彼岸の中日前後の9月22日から24日に歩刈が行われた年が八割を超える。一方、十八世紀後半から十九世紀前半の金井沢村では、彼岸入りから彼岸明けに当たる9月19日から27日の期間に内歩刈が実施された年が七割を超えていた。明治初期から両村の歩刈実施日は、彼岸の中日に固定化した。

明治・大正期の両村では、毎年、上田、中田、下田の三方所で歩刈が実施された。歩刈の対象となった水田の地主は両村ともにほぼ固定して、福米沢村では、水田の小字名、地番もほぼ固定した。一方、十八世紀後半から十九世紀前半の金井沢村では、毎年、二カ所から六カ所で内歩刈が実施されて、凶作年には例年より多くの水田で内歩刈が行われた。歩刈の対象となった水田の小地名と地主は多様であった。明治初期から両村では、歩刈の対象となった水田が固定化した可能性がある。

金井沢村で明治・大正期に歩刈の対象となった水田で栽培されていた稲の品種名は、十八世紀後半の四二年間と比較して著しく増加した。金井沢村と福米沢村で歩刈の対象となった共通の品種名は六種にとどまり、両村で

は、品種名の異なる多様な稲が栽培されていた。

十八世紀中期から十九世紀中期まで、金井沢村では、毎年、上中下田から中位の作柄の水田を選び、稲の生育状況に応じて、実施日を調整して、内歩刈を行った。内歩刈で得られた籾の容積をもとに、籾と米の反当収量を試算して、上中下田の反当収量の平均値を求め、水田総面積を乗じて、村の総収量を推定していたとみられる（川口、二〇二一A、二〇二二）。天明・天保期の凶作年には、内歩刈の結果を根拠に検見歩刈を要請して、年貢減免などを求めた。

地租改正を契機に、金井沢村と福米沢村は、歩刈の実施日と対象となる水田・地主を固定化した。福米沢村では、同一小字・地番の水田に、ほぼ毎年、異なる品種名の多様な稲を栽培して、歩刈を実施した。

本稿で確認した一連の変化は、江戸時代後半に村の総収量把握を目的として行われていた歩刈が、大きく変質したことを示唆しているのではなからうか。奥会津では一八四〇年代から始まる人口増加を背景に、不足する飯米の増収を目指して、多様な品種名を持つ稲を試験栽培

して、定時・定点観察することが、歩刈の目的に加わったと考えたい。

十八世紀中期から二〇世紀初頭に至る籾の収量を追跡するには、引き続き、一步の面積、枡の容積、稲の品種、および村が歩刈を継続した目的の理解に努めることが肝要である。

謝辞 筆者は、平成三〇年三月、南会津町立奥会津博物館から、「作毛位付帳」をはじめ、室井家文書の写真撮影を許された。佐々木長生先生には、『會津農書』などに記録されている農業の変化を読み解く方法について御教示いただいた。小澤弘道先生には、会津地方における一問の長さについて御教示いただいた。会津若松市立会津図書館には、所蔵史料について懇切に御教示いただいた。翻刻にあたり、難読文字を石堂詩乃先生、鈴木明子先生に御教示いただいた。改めて各位の御厚情に深謝したい。本稿は、令和三年度から六年度の科学研究費補助金・基盤研究（B）、研究代表者…川口 洋、課題番号…二一H〇三七七六を用いた研究成果の一部である。

注

(1) 中部地方の四三にのぼる坪刈帳を分析した佐藤常雄は、一升籾重量が坪刈帳に最も早く表れたのは、山梨

県小淵沢町上笹尾の明治十四(一八八二)年であり、米穀検査制度の確立や白米の小売りが容量制から重量制に転換したことを背景に、米穀の多収性だけでなく良質性も追究するという米穀市場に対応して、大正末期から昭和初期に坪刈帳の記載事項として一般化したと指摘している(佐藤、一九八七・三六〇～三六一頁)。

(2) 室井平蔵氏(一八六五～一九二八)は、南会津郡役所、福島県庁、大蔵省、日本銀行などに勤め、大蔵省では、『明治大正財政史』の編纂に携わった(南会津地方町村会、二〇〇五・一八六頁)。

(3) 明治八(一八七五)年の作況記録には、「歩刈帳之義、明和年中々年々書添置、当年も右之帳紙取被出置候處、絵図認之節大勢出入候ニ付、其処々不相見候。然而当亥年々新ニ書置候也。」

九月廿五日 戸長 室井五郎七、其後ニ発見セリ。」と記されている。明治八年に保管場所から取り出された「作毛位付帳」は、「絵図認節大勢出入候ニ付」、一旦紛失したが、その後発見された。「絵図認節」とは、地租改正のために字限図と一村絵図が作成されていた明治八年8月から、大豆渡村・黒沢新田村の村役人と地主立会いの下に再確認が行われた9月末までの期間と推測される。

参考文献

- ・アチック・ミューゼウム(一九三九)『星家所蔵種子帳・稲刈帳―新潟県北魚沼郡湯之谷村―』アチック・ミューゼウム彙報、第三八。
- ・柏倉亮吉・山崎吉雄編(一九五五)『自作農家々計に関する諸記録―山形県上ノ山市西郷字高松加藤久弥氏所蔵―』山形県農地開拓課(国立国会図書館デジタルコレクション)。
- ・川口 洋(二〇二二A)「十八世紀中期から二〇世紀初頭の陸奥国会津郡金井沢村における稲の作況記録 ―室井家文書「作毛位付帳」(宝暦九年から寛政十二年まで)―」日本文化史研究、第五二号、一五三～二〇五頁。
- ・川口 洋(二〇二二B)「天明期の冷害に伴う人口変動」井上 孝・和田光平編著『自然災害と人口』原書房、二七～五〇頁。
- ・川口 洋(二〇二二C)「十八世紀中期から二〇世紀初頭の陸奥国会津郡金井沢村における稲の作況記録 中―室井家文書「作毛位付帳」(享和元年から天保十一年まで)―」日本文化史研究、第五三号、一六七～二二一頁。
- ・岸 英次(一九四七)『関谷家稲刈覚帳の研究―一農家における文化七年以降の水田生産力の變遷(農業総合研究所研究叢書第一号)』農林省農業総合研究所。

- ・佐藤常雄（一九八七）『日本稲作の展開と構造』吉川弘文館。
- ・田島町史編纂委員会（一九九二）『田島町史 第3巻』歴史春秋社。
- ・豊原研究会（一九七八）『豊原村』東京大学出版会。
- ・長谷誠一・佐々木高雄・菅 勝彦（一九八三）『風土の刻印 ヤマセ北東風社会』東奥日報社。
- ・福島県（一九六五）『福島県史 第9巻 資料編4、近世資料2』。
- ・福島縣南會津郡役所（一九一四）『南會津郡誌』明文堂。
- ・南会津町教育委員会（二〇一〇）『奥会津博物館収蔵資料目録 第1集 室井哲之輔家寄贈文書』。
- ・南会津地方町村会（二〇〇五）『南会津のあゆみ』歴史春秋社。
- ・山田龍雄・飯沼二郎・岡 光夫編（一九八二）『日本農書全集 十九 会津農書 会津農書附録』農山魚村文化協会。

陸奥国会津郡金井沢村「作毛位付帳」(明治六年から大正五年まで) 翻刻

明治十一年ヨリ 五年間
〃 十五年マテ

凡例

・ 原文の表記は、原則として、漢字は常用漢字を、仮名は通行の字体を用いた。ただし、常用漢字以外の文字、「而」、「者」、「ぢ」、「ゝ」、「艸」は、原文どおりとした。

明治四十三、四十四年 二年間
大正元 一年間
明治ニナリテ概ネ左ノ如シ
荊取ハ彼岸の中日

・ 丁替えは、「二」で示した。
・ 読解の便を考慮して、句読点を付した。

翻刻

宝暦九年ヨリ

作毛帳

金井澤(表紙)』

欠

天保十二年ヨリ 三十二年間
明治五年マテ

大正五年 八月二十六日
豊後 七十二株 千二百十二本
初 一升七合 野中弥作
一升 三百十匁

上田 字石田 旧街道端 星久吾
中田 字沢田 馬場前 星春吉
下田 字砂田 一里塚上 室井吉松
杓目、重量共初にて

(参照) 福米沢分明治十年ヨリ大正四年マテ』

赤わせ 六十株 七百七十二本

粗 一升四合 鈴木長次郎

一升 二百七十匁

稲太郎 八十一株 九百七十二本

粗 貳升 室井吉松

一升 二百六十匁

区长 室井久七

大正四年 旧八月十六日

上田 七十六株 奥柴田

一、粗 貳升八合九勺 野中弥作

一升 二百二十五匁

少々かれほあり

中田 八十一株 岩下

一、粗 貳升五合七勺 鈴木五郎八

一升 二百三十匁

下田 七十五株 大黒

一、粗 貳升五合 室井吉松

一升 二百三十匁

区长 室井勘三郎

当役 野中清八

〃 鈴木源吉

人足

大正三年

上田 八十六株 貳升六勺

一升 貳百八十匁

野中弥作

中田 六十六株 壹升五合八勺 鈴木五郎八

一升 貳百九十匁

下田 九十株 壹升六合貳勺 室井吉松

一升 三百匁

区长 鈴木傳八郎

大正二年

七十六株

上田 壹升貳合 野中弥作

一升 貳付 貳百貳拾匁

七十式株

中田 壹升四合 鈴木五郎八

一升_二付 貳百七拾匁

〃 室井治郎吉
小走 野中源太_一

七十九株

下田 壹升貳合 室井吉松

一升_二付 貳百貳拾七匁_一

明治四十一年 旧八月二十八日

字石田 八十九株

上田 壹升五合 野中弥作

一升_二付 貳百四拾壹匁

明治四十二年 旧八月十日

字沢田 九十三株 鈴木五郎八

九十式株 野中弥作

中田 壹升八合 野中弥作

上田 貳升 野中弥作

一升_二付 貳百四拾壹匁

一升 貳百三十四匁

字砂田 七十一株

八十四株 鈴木五郎八

下田 貳升壹合四夕 室井吉松

中田 貳升貳合 鈴木五郎八

一升_二付 貳百貳拾匁

一升 貳百五拾四匁

宿元 区长 室井長十郎

八十六株

当役 室井弥三郎

下田 壹升九合 室井吉松

〃 鈴木嘉三郎

一升 貳百五十四匁

小走 野中源太_一

区长 室井長十郎

当役 鈴木五郎八

明治四十年 旧八月十七日

八十九株 字石田

上田 壹升四合五勺

一升 貳百三拾五匁

八十株 字沢田

中田 壹升六合九勺

一升 貳百七十五匁

九十四株 字砂田

下田 貳升貳合

一升 貳百五十五匁

野中弥作

下 九十三株

一、貳升壹合壹勺

一升 二百二十五匁

鈴木五郎八

区长代り及当役

星春吉

室井吉松

当役 室井市兵衛
小走 鈴木嘉三郎

区长 室井傳三郎

明治三十八年

旧八月二十六日

当役 湯田五右衛門

上田 八十七株

渡部喜四郎

一、善作わせ 壹升貳合五勺

野中弥作

明治三十九年

上 九十一株

一、壹升八合

野中弥作

一、白わせ 壹升五合

星春吉

一升 二百二十五匁

下田 七十四株

中 九十八株

一、白わせ 壹升參合

室井吉松

一、貳升壹合九勺

鈴木五郎八

一升 貳百拾匁

区長 宿元 室井徳四郎

当役 室井義助

〃 芳賀庄三郎

小走 鈴木嘉三郎】

明治三十六年

上田 七十三株

善作わせ 九合五勺

一升 式百九十五匁

中田 七十六株

半丈穀 壹升八合

一升 式百八十匁

下田 八十七株

本明返り 壹升九合五勺

一升 式百八十匁

星久吾

星春吉

室井吉松

区長 室井助右衛門

当役 野中弥作

〃 鈴木傳八郎

人足 君島弥七

小走 渡部喜四郎】

旧八月十四日

明治三十七年

上田 八十七株

一、善作わせ 壹升八合

一升 式百五十五匁

中田 八十七株

一、万ばい 壹升五合

一升 式百拾五匁

下田 八十七株

一、をくぼ 壹升九合

一升 式百七十五匁

区長 野中弥作

当役 芳賀弥惣治

〃 室井安吉

人足 室井長十郎】

明治三十五年

上田 九拾八株

本明返り 壹升

旧八月二十三日

星久吾

一升 貳百七十匁

中田 八十四株

岩下稻 (未熟不製)

一升_二付

下田 七十六株

大竹稻 (未熟不製)

一升_二付

室井吉松

区长 室井助右衛門

当役 室井文吉

〃 鈴木宗平

人足 君島弥七

小走 渡辺甚七

明治三十四年

旧八月十二日

上田 九十六株

一、壹升七合五勺四才

星久吾

一升 貳百九十五匁

中田 八十二株

一、壹升七合六勺五才

星春吉

一升 三百拾五匁

下田 八十八株

一、壹升六合九勺

一升 貳百九十五匁

室井吉松

区长 鈴木五郎八

当役 室井德太郎

〃 〃 庄八

人足 野中源太

小走 渡部甚右衛門

明治三十三年

旧八月三十日

上田 九十九株

一、壹升四合四勺

星久吾

一升 貳百七十壹匁

中田 九十三株

一、壹升五合

星春吉

一升 三百十一匁

下田 八十九株

一、壹升貳合八勺

室井吉松

一升 貳百九十一匁

区長 鈴木五郎八

代 君島徳義

宿元 当役 室井吉松

〃 鈴木四次

人足 室井傳三郎』

〃 室井音三郎

小走 渡部甚七

人足 鈴木瀧治』

明治三十一年 九月二十三日 旧八月八日

上田 百四株

一、本明返 壹升五合二夕 星久吾

旧八月十九日

中田 八十九株

一、万倍 貳升壹合五夕 星春吉

一升 二百四十五匁

中田 八十七株

一、本明返り 壹升九合 星春吉

一升 二百四十五匁

区長代り 室井長十郎

下田 九十二株 室井吉松

一、本明返り 壹升九合五夕

区長 鈴木五郎八

当役 星春吉

当役 鈴木与助

代 瀧治

室井菊重

小走 渡部熊作』

明治三十年 九月二十三日 旧八月二十七日

上 百十二株

一、軽子わせ 壹升六合四勺七才 星久吾

一升 貳百三十匁

中 百五株

一、万倍 壹升六合七勺五才 星春吉

一升 貳百匁

下 百十二株

一、白稲 貳升壹合九勺 室井吉松

一升 貳百五拾貳匁

区长 君島徳義

当役 室井太平

〃 芳賀勝治

人足 鈴木瀧治

明治二十九年 旧八月十六日

上 百二十一株

一、半上石 壹升六合貳勺

一升 二百五十匁

星久吾

中 九十二株

一、万倍 貳升

一升 貳百四十匁

下 百二株

一、本明 壹升九合

一升 貳百四十匁

室井吉松

明治二十八年 旧八月五日

上 九十六株

一、かるこ 壹升壹合 星久吾

一升 二百四十二匁

中 九十四株

一、本明 貳升壹合壹勺 星春吉

一升 二百四十四匁

下 九十四株

一、本明 貳升三合三勺 室井吉松

一升 二百五十九匁

区长 鈴木五郎八

当役 鈴木金太郎

〃 君島弥七
人足 鈴木瀧治

字石田 上 七十六株
一、本妙 壹升五合 星久吾

明治二十七年 旧八月二十四日

字沢田 中 百十四株

上 百十一株

一、半上石 貳升四合五勺 星春吉

一、岩下 壹升七合

星久吾

一升 二百四十五勺

一升 二百五十勺

字砂田 下 百二十三株

中 百五株

一、烏わせ 貳升五合 室井吉松

一、本明 壹升九合九勺

星春吉

一升 二百六十五勺

一升 貳百七十勺

宿元 区长 君島德義

下 九十三株

一、白稲 貳升

室井吉松

明治二十五年 旧八月二日

一升 三百十勺

字石田 上 九十株

区长 鈴木五郎八

一、烏わせ 壹升四合六勺五才 星久吾

当役 室井栄蔵

一升 二百五十八勺

〃 渡部久次郎

字沢田 中 百四株

人足 室井文吉

一、白稲 壹升七合八勺七才 星春吉

又ハ善作わせトモ云フ。

明治二十六年 旧八月十四日

一升 二百七十三勺

字砂田 下 百十二株

一、山口 壹升七合七才 室井吉松

一升 二百八十三匁

宿元 区长 君島徳義

一升 二百九十二匁

字沢田 百七株

一、中 壹升六合九才 星春吉

一升 二百九十匁

字砂田 百五株

一、下 貳升 室井吉松

一升 二百九十二匁

明治二十四年 旧八月二十一日

上 九十八株

一、壹升八合壹才三才 星久吾

一升 百五十匁

中 百十五株

一、貳升五才 星春吉

一升 百七十匁

下 百二十二株

一、三升貳合四才 室井吉松

一升 百四十匁

明治二十三年 旧八月十日

字石田 百二十一株

一、上 壹升五合 星久吾

一升 二百九十二匁

字沢田 百七株

一、中 壹升六合九才 星春吉

一升 二百九十匁

字砂田 百五株

一、下 貳升 室井吉松

一升 二百九十二匁

明治二十四年 旧八月二十一日

上 九十八株

一、壹升八合壹才三才 星久吾

一升 百五十匁

中 百十五株

一、貳升五才 星春吉

一升 百七十匁

下 百二十二株

一、三升貳合四才 室井吉松

一升 百四十匁

明治二十二年 九月二十四日 旧八月三十日

沢田 一、半上石 壹升四合七勺五才 星久吾

一、 一升 二百六十五匁 星春吉

一升 二百九十二匁

字沢田 百七株

一、中 壹升六合九才 星春吉

一升 二百九十匁

字砂田 百五株

一、下 貳升 室井吉松

一升 二百九十二匁

区长 君島徳義

当役 鈴木瀧次

〃 室井傳三郎

人足 芳賀幸七

砂田

一、 壹升八合五勺二才 室井吉松

一升 二百七十匁

室井助右衛門

〃 又三郎

人足 星久吾

明治二十一年 九月二十二日 旧八月十七日

柿下 百十三株

一、白子 壹升四合八勺 星久吾

一升 貳百五十匁

沢田ま、下 九十三株

一、半上石 壹升七合四勺四才 星春吉

一升 二百三十五匁

砂田段之上 百三十株

一、岩下 貳升七合 室井吉松

一升 二百五十匁

世話掛代り 室井助右衛門

宿 当役 室井文吉

〃 鈴木長治郎
野中源太

明治二十年 九月廿三日 中日

柿下 百廿四

一、上 壹升六合五勺 久吾

壹升 三百匁

沢田 百六拾株

一、中 壹升八合 春吉

壹升 貳百九拾五匁

段ノ上 百十式

一、下 貳升貳合 吉松

壹升 貳百三十五匁

世話掛 室井長十郎

当役 君島竹治

〃 芳賀治平

人足 室井徳太郎

明治十九年 旧八月廿六日 中日

柿下 百十四株

一、上 壹升三合六夕六才 久吾

壹升 三百匁

沢田 九十一株

一、中 贰升貳合六夕五才 春吉

壹升 貳百九十匁

段ノ上 九十八株

一、下 贰升三夕 吉松

壹升 貳百九十匁

右 九月廿三日

世話掛 室井助右衛門

当役 室井初三郎

当役 宿 鈴木庄吉

小走り 人足 室井文七』

明治十八年 九月廿三日

旧八月十五日

百五

一、上 壹升五合 久吾

壹升目 貳百五十匁

沢田 一百株

一、中 壹升七合 春吉

壹升目 貳百五拾匁

段ノ上 百五 貳升貳合五夕 喜三郎

一、下 壹升目 貳百五拾匁

世話掛 君島徳義

当役 室井徳四郎

当役 芳賀庄三郎

人足 代 幸七

野中源太』

明治十七年 九月廿三日

柿下 百廿六

一、上 壹升六合 久吾

壹升目 貳百廿八匁

沢田 百十九

一、中 貳升 春吉

壹升目 貳百四十九匁
段ノ上 百九匁（誤記也）

一、下 貳升壹合五夕 喜三郎

壹升目 貳百六十八匁

×

世話掛 君島徳義

宿元 当役 鈴木五郎八

〃 室井治郎吉

人足 庄三郎

小走 きち』

明治十六年 九月廿三日

柿下 百廿三かぶ

一、上 壹升四合壹夕 久吾

壹升目 貳百六十七匁

ま、下 百十一

一、中 貳升 春吉

壹升目 貳百六十匁

段ノ上 九十九株

一、下 壹升七合 喜三郎

壹升目 貳百六十四匁

用掛 君島徳義

当役 鈴木藤吾

明治十一年ヨリ

〃 十五年マテ 五ヶ年欠』

明治十五年』

（参照）

自明治十年至大正四年

歩菰

第十七区

福米澤

（大正五年八月十四日写）』

明治十年 （地主ノ肩書略ス）

一等 根岸 四十四番 地主

一、大黒 壹升 八十五株 児山求平

二百九十五匁

〃 十二年九月廿三日
沼田 百三番

四等 風下 二百三十四番

無跡

一、虫喰^ず 一升六合三夕 八十八株 佐藤寅太郎

一、虫喰^ず 一升 九十一株

沖右衛門

二百九十三匁

風下 二百三十四

八等 下川原^{シタ} 六百三十六番 地主

一、本明 一升一合五夕 九十株

沖右衛門

一、清水 九合

八十五株 室井しん

下川原 三百三十番 四百五十五匁

二百七十匁

一、わせ大黒 一升五夕

百八株 室井しん

〃 十一年旧八月廿七日

四百三十五匁

一等 沼田 百三番

佐藤寅太郎

一、小竹もち 一升五合

八十三株

〃 十三年九月廿三日

四百二十七匁五分

沼田 百三番

百三株 佐藤寅太郎

風下 二百三十四

無跡

一、虫喰^ず 貳升三合

百三株

一、奥^ほ 一升一合 八十九株

沖右衛門

風下 二百三十四番 六百六十五匁

三百十三匁五分

一、奥^ほ 一升七合五夕

株 沖右衛門

八等 下川原 三百三十六番

百十三株

五百匁

不明

一、小塩わせ 九合五匁

室井しん

下川原 三百三十番

二百八十五匁

一、大黒 一升八合 百十九株 室井豊蔵
五百匁

十四年

風下

一、本明 一升二合五夕 百十三株 湯田善八
三百七十匁

金井神

一、早稲大黒 一升三合 百株 藤沢八郎治
四百十五匁

下川原

一、〃 一升一合弍夕 百四株 室井しん
三百三十五匁

十五年九月廿三日

風下

一、大黒 弍升 百六株 湯田善八
四百二十匁

沼田

一、虫喰又 一升三合 八十九株 児山利八
三百七十匁

下川原

一、同 一升三合 九十五株 室井豊蔵
三百六十匁

風下

十六年九月廿三日

一、虫喰又 一升四合 九十九株 湯田善八
四百五十匁

三十苅

一、 一升二合 百四株 藤沢八郎治
三百九十匁

下川原 三百三十四番 百十九株 室井豊蔵
一、上八田 一升一合

三百七十匁

十七年九月廿三日

柳原 三百十四

一、大黒 一升六合五勺 百十株 湯田善八

四百六十五匁

三十蒔 四百二十

一、烏わせ 一升二合 九十三株 藤沢八郎治

三百四十匁

下川原

一、小塩わせ 一升二合 百三株 室井豊蔵

三百七十五匁

○十八年九月廿三日

風下 二百二十九

一、大倉 一升九合 九十六株 室井善吉分

五百七十七匁

三十蒔 四百二十 作主

一、小塩わせ 一升四合 百十四 室井政八分

四百二十五匁

下川原

一、植田 一升三合七勺 百三株 室井豊蔵分

三百八十五匁

○十九年九月廿三日

風下 二百二十九

一、タハツ 一升七合四勺 百七株 室井善吉

五百八十匁

三十蒔 四百二十番

一、半上石 一升五合一勺 百四株 藤沢八郎治

五百匁

下川原 六百三十六

一、白しね 一升三合七勺 百一株 室井豊蔵

四百五十匁

○二十年旧八月七日

風下 二十九 二トアリ

一、白しね 一升九合五勺 二百二十株 室井善吉

五百十匁

三十刈 四百二十番

一、稲鳥わせ 一升二合九勺 百九株 藤沢八郎治

三百九十匁

下川原 六百三十番

一、小塩わせ 一升四合 百三十四株 室井豊蔵

四百三十五匁

三十苺 四百二十

一、大黒 一升二合 百十二株 政八

三百四十匁

○二十一年九月二十二日

風下 二十九

一、奥ほ 二升三合四夕 百十五株 室井善吉

二百九十匁

三十刈 四百二十匁

(番の誤記か)

作人

一、虫喰ず 一升三勺 百九株 室井政八

二百八十匁

下川原 六百三十番

一、白しね 一升五合 百三十株 室井豊蔵

四百二十匁

○二十三年旧八月十一日

風下 百二十九

一、 二升一合三勺 百二十四株 室井善吉

五百九十四匁

三十苺 二十

一、 一升三合三夕 九十八株 湯田定蔵

三百八十四匁

下川原 六百三十匁

(番の誤記か)

一、 一升二合六夕 百五株 室井豊蔵

三百五十四匁

風下 百二十九

一、白しね 一升七合七勺 百二十七株 室井善吉

○二十四年九月二十三日

風下 百二十九

一、はん上こく 二升

百三十株 室井善吉

四百六十八匁

三十苜 四百二十番

作人

一、山口わせ 一升四合

百八株 湯田定蔵

三百八十八匁

下川原 六百三十番

一、白しね 一升二合四夕 百十四株

室井豊蔵

三百六十三匁

○二十五年九月二十三日

風下 百二十九

一、虫喰え 一升四合三勺 百十二

室井善吉

四百五匁

三十刈 四百二十

一、山口わせ 一升五夕 五十八

藤沢和七

三百二十二匁五分

下川原 六百三十

一、白稲 一升三合 百 室井豊蔵

三百九十匁

○二十六年旧八月十四日

風下 百二十九

一、半上穀 一升七合五勺 百二十二 室井善吉

五百十六匁三分

三十刈 四百二十

作主

一、山口ワセ 一升三合八夕 八十三 湯田定蔵

四百四十一匁六分

下川原 六百三十

一、白稲 一升二合八勺 百十 室井豊蔵

四百十六匁

○二十七年旧八月廿四日

風下 百二十九

一、三度替り 一升七合九勺 百 室井善吉

五百匁

三十刈 四百二十

作主

一、半上穀カルホ交り 一升四合一勺 七十四 湯田定蔵

四百二十匁

下川原 六百三十

一、白稲 一升一合九勺 百

室井豊藏

三百五十七匁

三十刈

四百四十一匁

一、三戸かわり 一升三合八勺 百

藤沢八太郎

三百八十一匁

下川原

一、白稲 一升一合三勺 九十六

室井豊藏

三百三十一匁

風下 百二十九

○二十八年九月二十三日

一、かる子 一升四合九勺 百

室井善吉

四百二十三匁

○三十年九月二十三日

作主

風下

一、かる子 一升三合一勺 百十一

室井徳太郎

一、相馬ヲクボ 一升四合 百九

室井政八

三百七十六匁

四百十匁

下川原 六百三十

三十刈

一、三度替り 九合八勺 百十三

室井豊藏

一、三戸返り 九合五勺 百五

藤沢八太郎

二百六十二匁

二百三十匁

下川原

一、大丈白稲 一升三合 八十七

室井豊藏

二百八十五匁

風下

○二十九年九月二十二日

一、ヲクボ 一升五合五勺 九十六

室井政八

○三十一年旧八月八日

風下 百二十九

一、かるこ 一升七合三夕 百 室井善吉

五百十匁

三十刈

一、梅三郎 一升二合 八十七 藤沢和七

三百七十匁

下川原

一、大黒 一升四合二勺 百十 室井豊蔵

三百九十匁

○三十二年旧八月十九日

風下

一、はんじやうこく 一升四合七夕 八十五 室井善吉

四百二十七匁

三十刈

一、かるこ 一升一合一勺 九十 藤沢和七

三百十九匁

下川原

一、白しね 一升五勺 百四 室井豊蔵

三百十匁

○三十三年旧八月三十日

風下

一、三度かハリ 一升七合四勺 百七 室井政八

五百十匁

三十刈

一、三度かハリ 一升四合一勺 九十九 藤沢和七

四百二十匁

下川原

一、越後ほん明 一升五合一勺 八十七 室井豊蔵

四百六十匁

○三十四年旧八月十二日

三十刈

一、 一升六合 百八 室井政八

四百九十二匁

三十刈

一、 一升五合 九十四 藤沢和七
三百五十二匁

下川原 区長

三十刈 一、ソヲマボ 一升三合二勺 八十
四百匁

一、三度代り 一升八合 百八 室井徳藏

一、シンシウ 一升一合二勺 八十三 藤沢八太郎
三百七十五匁

四百二十二匁

下川原

○三十五年旧八月二十三日

一、ソヲマボ 一升二合七勺 九十五 室井豊藏
三百九十四匁

風下

一、金州 七合 七十八 室井政八

百九十二匁

○三十七年九月二十三日

風下 二百二十七 一、元治郎わせ 一升六合 七十九 室井政八
四百八十七匁

三十刈 一、本明 一升一合 九十四 藤沢和七

二百九十二匁

下川原

三十刈

一、有子 七合六尺 九十三 室井豊藏

二百二匁

一、エチゴ本明 一升四合 七十七 藤沢和七
三百八十七匁

下川原

○三十六年旧八月四日

一、おくぼ 一升一合 百七 室井豊藏
三百三十七匁

風下 二百二十七

三十八年九月二十四日

風下 二百二十七

一、相馬芒

二勺

六十八

室井政八

八匁

三十刈 四百二十

一、半上石

四合四勺

七十四

佐藤久弥

九十八匁

下川原 六百三十九

一、三度変り

一合八勺七才

九十六

室井豊蔵

四十三匁

三十九年九月廿四日

風下 二百二十七

一、元治郎わせ

二升六勺

六十五

室井政八

五百二十二匁

三十刈 四百二十

一、梅三郎もち

一升二合六勺

百一

佐藤久弥

三百二匁

下川原 六百三十九

一、能固

二升六勺

八十九

室井豊蔵

五百二匁

四十年九月二十四日

風下 二百二十七

一、元治郎わせ

一升二合

七十九

室井政八

三百九十八匁

三十刈 四百二十

一、おくぼ

一升二合六勺

八十九

藤沢八太郎

三百八十八匁

下川原 六百三十九

一、元治郎白わせ

一升六合五勺

八十四

室井豊蔵

五百二十匁

四十一年九月二十三日

風下 二百二十七

一、両原白わせ

一升四合五勺

七十五

室井政八

百六十匁

三十刈 四百二十

一、ジツクリわせ 一升二合 八十五 藤沢八太郎

一、元治郎わせ 一升九合五勺 七十九 室井政八

七十匁

二百七十三匁

下川原 六百三十九

三十刈 四百五十

一、元治郎わせ 二升 九十三 室井豊蔵

一、元治郎わせ 一升一合 七十三 藤沢八太郎

二百六十匁

一升 二百六十三匁

下川原 六百二十九

四十二年九月二十四日

一、関東わせ 一升五合 八十四 室井豊蔵

風下 二百二十七

一升 二百八十三匁

一、元治郎わせ 一升七合三勺二才 六十五 室井政八

二百八十匁

四十四年九月二十四日

三十刈 四百五十

風下 二百二十七

一、元治郎わせ 一升五合九才 九十三 藤沢八太郎

一、半上石 一升八合 八十一 室井政八

二百六十五匁

一升 二百六十一匁

下川原 六百二十九

三十刈 四百五十

一、梅三郎もち 一升七合四勺五才 七十二 室井豊蔵

一、半上石 一升五合 七十一 藤沢八太郎

二百九十五匁

一升 二百六十一匁

下川原 六百二十九

四十三年九月二十四日

一、白稲 一升六合八勺 七十一 室井豊蔵

風下 二百二十七

一升 二百七十一匁

元年九月二十三日

風下 二百二十七

一、里わせ 一升七合五勺

一升 二百三十匁

三十刈 四百五十

一、半上石 一升七合

一升 二百十五匁

下川原 六百二十九

一、白稲 二升三合

一升 二百三十匁

二年九月二十四日

風下 二百二十七

一、半上石 一升

一升 二百二十匁

三十刈 四百五十

一、梅三郎モチ 一升二合五勺

一升 二百四十五匁

下川原 六百二十九

一、白稲 一升四合

一升 二百四十匁

六十三 室井豊蔵

三年九月二十四日

風下 二百二十七

一、文吾 二升一合五勺

一升 三百五匁

三十刈 四百五十

一、上田 一升一合

一升 二百八十匁

七十二 藤沢八太郎

下川原 六百二十九

一、白稲 一升九合五勺

一升 二百六十五匁

八十三 室井豊蔵

四年九月二十四日

風下 二百二十七

一、文吾 二升八合

一升 三百六十五匁

七十七 室井政八

三十刈 四百五十

一、梅三郎もち 二升五勺 七十一 藤沢八太郎

一升 二百八十五匁

下川原 六百二十九

一、文吾 二升五合七勺 八十六 室井豊蔵

一升 二百九十五匁

室井兵平

鎌取 弥平二

明治九年 九月廿四日

歩刈 彼岸五日め

柿下

一、赤わせ 壺升壺合三夕 久吾

百拾貳株 壺升目 貳百八拾六匁

ま、下

一、赤わせ 壺升四合九夕 利吉

百拾壹株 壺升 貳百七十六匁

右者旧栢^二而刈

御改正六尺壺分竿

廣面之内大道はた

一、清水 壺升四合八夕 彦平

百廿三株 壺升 貳百八十壺匁

右歩刈之義、彼岸中日

雨天^二付五日め^二いたし候上、

上中貳鎌旧竿^二而刈取

明治十年 九月廿三日

彼岸中日

一、大倉 壺升四合貳夕 市三郎

百貳株 一升 貳百八十匁

一、白子 壺升壺合六夕 春吉

八十八 一升 三百匁

一、白子 壺升七合 喜三郎

百貳株 一升 三百匁

鈴木孫八

鈴木清吾

鈴木圓治

室井市十郎

改正新竿六尺壹分^ニ

いたし彦平田壹鎌

刈取申候。

伍長

鈴木清吾

当役

室井徳四郎

星利吉

鎌取

忠八

五郎七義^ニ貢税取建^ニ

田方へ相廻^リ不申候^ニ付、手前

宅^ニ而相改申候。

御天氣日和中也。』

明治八年 九月廿五日

歩刈

下夕村前百刈

室井市十郎

一、のと

壹升貳合五夕

百廿六株 壹升匁 貳百九拾匁

大道はたま、下

一、白子 壹升壹合 星利吉

八十六株 壹升匁 貳百九拾五匁

帯沢橋ノ向 壹升匁 室井作七

一、清水 九合五夕

百三拾四株 壹升匁 貳百七拾匁』

右之通、宿、室井傳三郎處

歩刈帳之義、明和年中^ノ

年々書添置、当年も右之

帳紙取被出置候處、絵図認之

節大勢出入候^ニ付、其処^ノ

不相見候。然^レ而当^レ亥年^ノ

新^ニ書置候也。

九月廿五日 戸長 室井五郎七

其後^ニ発見セリ』

明治七年戌 九月廿三日

内歩刈 彼岸中日 宿 作治

柿下

一、上田 壺升 星久吾

稲草 のと

株 百四ツ

壺升 貳百四拾匁

宮ノ前

一、中田 壺升六合 鈴木藤吾

稲草 からす

株 百五ツ

壺升 貳百九拾匁

段ノ上道南

一、下田 壺升貳合五夕 室井喜三郎

稲草 白子

株 百貳ツ

壺升 貳百七十五匁

明治六年酉 九月廿一日

内歩刈 彼岸二日め 宿 弥平治

下夕村前久右衛門田

一、上田 壺升壹合 室井市三郎

稲草 せきやま

株 九十四

壺升 貳百八拾五匁

馬場ま、下

一、中田 壺升三合五夕 星利吉

稲草 清水

百六株

壺升 貳百八拾匁

段ノ上道南

一、下田 壺升八合 室井喜三郎

稲草 白子

株 百六

壺升 貳百九拾匁

天保十二年ヨリ明治五年マテ 欠 三十二年間